

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																												
専門学校 文化デザイナー学院	昭和51年4月1日	大久保 博之	〒310-0026 茨城県水戸市泉町1丁目3番22号 (電話) 029-303-1010																												
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																												
学校法人リリー文化学園	昭和51年1月22日	理事長 大久保博之	〒310-0021 茨城県水戸市南町2丁目3番14号 (電話) 029-224-4820																												
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																											
文化・教養	産業デザイン専門課程	インテリアデザイン学科	平成20年文部科学省 告示第12号	-																											
学科の目的	本学科は、建築・インテリア業界においてインテリアデザイナーとして就職並びに活躍できる人材の育成を目指し、設計からインテリアに関する専門教育並びに、職種に必要な二級建築士やインテリアコーディネーターの資格取得を目的とする。																														
認定年月日	平成26年3月31日																														
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																								
2年	昼間	1950時間	915時間	990時間	45時間	0時間	0時間																								
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																										
60人	20人	0人	3人	23人	26人																										
学期制度	■1学期:4月1日～9月30日 ■2学期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 総合評価 A.B.C.D(D=単位不可)部分評価を総合して4段階で評価する。□																										
長期休み	■学年始:4月4日 ■夏季:7月25日～8月20日 ■冬季:12月25日～1月7日 ■学年末:3月16日			卒業・進級条件	①出欠は学期内全科目の規定回数を全て満たしている。 ②課題は学期内の規定課題作品を全て提出し、その評価は60点以上である。 ③試験は学期末に行われる期末試験ですべての科目が60点以上である。																										
学修支援等	■クラス担任制: 無 ■個別相談・指導等の対応 専任教員が担当する授業のキャリアデザインでは、毎回同じ者が担当する。 また、試験・課題・出欠・就職・学校生活についてはそれぞれの担当がいる。 長期欠席者への指導は電話確認、保護者への連絡、面談など。			課外活動	■課外活動の種類 mito☆ファッションショー・水戸まちなかフェスティバル・KUNITA DE LOHAS 東海村大空マルシェ ■サークル活動: 無																										
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成29年度卒業生) 設計・デザイン・インテリア事務所/ハウジング・住宅機器・CAD/建設業・ 工務店/リフォーム・ディスプレイ・空間デザイン ■就職指導内容 業界人を囲む会・卒業生を囲む会・就職ガイダンス・企業見学・模擬面接 ■卒業生数 13 人 ■就職希望者数 2 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 15.4 % ■その他 他、11名 インテリアデザイン研究科 進学 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東京商工各課所長キャリアコーディネーター検定3級</td> <td>③</td> <td>12人</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>リビングスタイリスト2級</td> <td>③</td> <td>13人</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>福祉住環境コーディネーター検定試験3級</td> <td>③</td> <td>11人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>商業施設士資格試験</td> <td>③</td> <td>10人</td> <td>10人</td> </tr> <tr> <td>インテリアコーディネーター</td> <td>③</td> <td>4人</td> <td>1人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 茨城建築学生建築展奨励賞・茨城県建築士会賞・茨城県建設業協会賞			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	東京商工各課所長キャリアコーディネーター検定3級	③	12人	6人	リビングスタイリスト2級	③	13人	9人	福祉住環境コーディネーター検定試験3級	③	11人	4人	商業施設士資格試験	③	10人	10人	インテリアコーディネーター	③	4人	1人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																												
東京商工各課所長キャリアコーディネーター検定3級	③	12人	6人																												
リビングスタイリスト2級	③	13人	9人																												
福祉住環境コーディネーター検定試験3級	③	11人	4人																												
商業施設士資格試験	③	10人	10人																												
インテリアコーディネーター	③	4人	1人																												
中途退学の現状	■中途退学者 2 名 平成29年4月1日時点において、在学者25名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者23名(平成30年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の原因 (例)学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等 ①経済的な問題での就学困難 ②方向性や適正など進路に対する自信の喪失③病気による社会生活・就学困難 ④家庭の事情 ■中退防止・中退者支援のための取組 対策として、欠席率の段階によって教職員による面談をしている。1段階指導として担当の面接、2段階指導として主任以上の職員による面接を実施している。また、課題の提出状況も把握し適切に指導出来るように、全ての規定課題(提出義務課題)については教務提出としている。経済的問題に対しても細かく配慮し、保護者との面談を行っている。奨学金や国の教育ローンなどを利用することによる資金計画について相談し、就学困難を回避している。また、昨今増えつつある精神的な病気についても出来る限り配慮することとし、安心して就学出来るように細かい面接等を行っている。これらの細部にわたる「学生に対する配慮」が退学率を低くしており、「愛情をもって接する」という一人ひとりのスタッフのスピリッツにより支えられている。			■中退率 8 %																											
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 無 ※有の場合、制度内容を記入 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																														
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																														
当該学科のホームページURL	www.bunka-gakuen.ac.jp																														

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除いたものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まれません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学部、歯学部、獣医学部、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

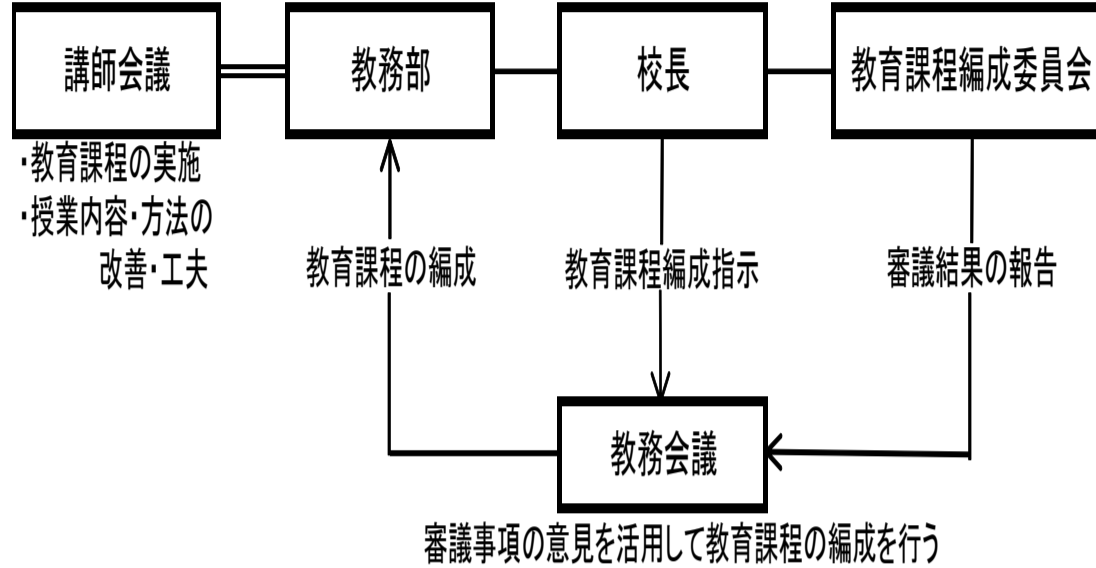
1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本校は、企業が求める人材ニーズや地域の産業振興の方向性を把握し、職業教育を向上させるために、企業・団体と連携して授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫を行うなど、企業等の要請を考慮した実践的かつ専門的な教育課程の編成を行うこととし、各学科の関連業界の動向や地域の産業振興に関して知見を有する業界団体の役職員や、実務に関する知識、技術、技能に関して知見を有する企業の役職員の方々を委員とする教育課程編成委員会を設置し、様々な意見を活用して教育課程を編成することを基本方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

下記図にあるように、教育課程編成委員会は校長が直轄して委員会を開催する。委員会は、授業科目の開設や授業内容・方法の改善や、企業が求める人材や就職に関して審議し、その結果を取りまとめ教務会議に報告する。教務会議は、報告のあった事項についての意見を活用し教育課程を編成するものとする。



(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年7月23現在

名前	所属	任期	種別
倉田 稔之	茨城デザイン振興協議会	平成29年7月24日～平成31年3月31日(2年)	①
坂 大樹	株式会社 スタジオサカ	平成29年7月24日～平成31年3月31日(2年)	③
樺本 学	いばらき印刷株式会社	平成29年7月24日～平成31年3月31日(2年)	③
橋本 人志	株式会社 水戸京成百貨店	平成29年7月24日～平成31年3月31日(2年)	③
安 浩美	株式会社 アーベホーム	平成29年7月24日～平成31年3月31日(2年)	③
杉浦 時彦	株式会社 アットワーク	平成29年7月24日～平成31年3月31日(2年)	③
高橋 琢	茨城インテリアコーディネーター協会	平成29年7月24日～平成31年3月31日(2年)	①
小川 憲一	茨城県建築士事務所協会	平成29年7月24日～平成31年3月31日(2年)	①
横須賀 弘	有限会社 コムスペースデザイン	平成29年7月24日～平成31年3月31日(2年)	③
大久保 博之	専門学校 文化デザイナー学院	平成29年7月24日～平成31年3月31日(2年)	
入江 清芳	専門学校 文化デザイナー学院	平成29年7月24日～平成31年3月31日(2年)	
荒井 真次	専門学校 文化デザイナー学院	平成29年7月24日～平成31年3月31日(2年)	
川上 大輔	専門学校 文化デザイナー学院	平成30年4月24日～平成31年3月31日(1年)	
菅谷 守	学校法人 リリー文化学園	平成29年7月24日～平成31年3月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

2回 / 毎年 2月、7月

(開催日時)

第1回 平成29年7月24日 15:00～17:00

第2回 平成30年2月13日 13:30～15:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

平成29年度 第1回教育課程編成委員会(7月24日)の活用状況

教育課程編成委員会等の意見	活用状況
	◆全学科全学年 授業名:全体的な授業・学校運営 平成30年度授業及び授業運営より取り入れる
①意見委員(倉田委員) 今と違い、自分が学んでいた頃は動画編集には専用の機材が必要だった。技術だけを頼りにしていると必ず技術に追い抜かれる。グラフィックやポスター、チラシ、WEBは考え方を落とし込まない場合がある。優先順位を付けて混沌としているものを整理する事、整理学が求められる。それが結果的にポスターなどになるのだが、実際に求められるスキルは整理学なのである。技術やテクニックはもちろん即戦力として必要だが、テクノロジーが学んだ時を追い越しても、考え方は変わらない。考え方が身につければ長くデザインをしていける。それを文化の武器、特徴にすると他の学校と差別化ができる。	①昨年、文部科学省で行われた説明会にて産業構造の急激な転換について話があった。米国で2011年に小学校に入学した子供の65%が、大学等卒業後に今はまだ存在していない職業に就き、現在の仕事の約47%が、今後10～20年程度で自動化される可能性が高いと予測されている。同様に日本においては、10～20年後には日本の労働人口の約49%が技術的に人工知能やロボット等に代替できるようになる可能性が高いという推計結果が出ている。そんな中で、抽象的な概念を整理・創出するための知識が要求される職業や、他者の理解、説得、ネゴシエーション、サービス指向性が求められる職業は、人工知能等での代替が難しい傾向にある。

	<p>◆全学科全学年 授業名：就職活動に関わる授業 平成30年度授業より取り入れる</p>
<p>②意見委員(坂委員) ポートフォリオの作り方についてだが、作品をまとめるときに自分の作品をどう見てもらうかということを考えて制作するとよい。会社側はその学生がどの程度の技術やデザイン力、考え方を持っているかを知る材料になる。企業やデザイナーからポートフォリオを作る際にこういうこと気をつけた方がいいという話を学生にできたら良いと感じた。</p>	<p>②ポートフォリオは、クリエイティブな職業に就くためには重要なアイテムである。きれいに作ることを考えて制作すればよいのではなく、企業側からの視点も考慮して仕上げなければならないことを今後の指導として強化していきたい。そのためには、それぞれがどのような職業に就きたいのかを明確にさせ、希望に合わせて深く企業研究をさせる必要があると感じた。これからポートフォリオを制作させる上でのポイントとして反映していきたい。</p> <p>また、このような意見を頂き、2017年10月24日～28日にて茨城デザイン振興協議会と共催で茨城のデザイナー展とポートフォリオ展を同時開催した。展示内容は茨城デザイン振興協議会の会員作品と文化デザイナー学院の学生と卒業生のポートフォリオを展示した。10月28日(土)には会員の方々と学生とのパネルトークを行い、学生は会員の方々にポートフォリオを見てもらいながら直接、意見を聞くことができた。今までの自分たちにはない生の情報を得られたことは、今後の就職活動や就職してからの資料のまとめ方にも繋がったと感じている。</p>
<p>③意見委員(橋本委員) 年々、企業・団体との連携が増えていると感じている。2年制は基礎を詰め込んで終わりだが、3年制は3年目で経験や知識も増える。それが文化の卒業生なら安心だという信頼に繋がり、就職率へも結果が出ている。</p>	<p>◆全学科全学年 授業名：企業と連携する授業 平成30年度授業より取り入れる</p> <p>③企業との連携授業については、毎年反省点がある。学校が目指している学習効果を考えた課題設定に必ずしているが、課題が進むにつれて学習効果を望むからこそ最終的なアウトプットが違った方向性になる場合もある。課題を進めるうえで芯となる部分なので、講師の先生方とも授業のたびに協議をしている。話し合いを何度も行うことで問題点も見えてくる。その問題点を次の企業との連携授業にも反映させ取り組みを行っているため、それが就職率にも繋がっていると考えている。今後の連携授業の取り組みとしても、常に反省点を生かすこと、時代に求められる技術や知識を授業の内容に反映させることを忘れずに授業運営を行っていきたい。</p>
<p>④意見委員(橋本委員) 企業のニーズや産業の方向性を見極める事が大事である。プロダクトを販売側が顧客目線に立って考えるかが大事な時代に突入した。チラシなどの集客も大事であると感じている。自分たちがいくら良いと思っても、一番大事なのはお客様の反応である。そういった意識を常に持ってほしい。いかにエンドユーザーを意識した仕事ができるか。人と接することへの苦手意識を持たずに売り場を作っていく事が出来る人材が企業の求める人材である。</p>	<p>◆ファッションコーディネート学科3年 授業名：サービス接遇 平成30年度時間割より授業に反映させる</p> <p>④平成31年度からファッションコーディネート学科の授業構成を大きく変えることになった。学科名もファッション&ブライダルビューティ学科として、今までの内容をプラスして、ブライダルとビューティを強化して授業を行う。ファッションに限らず、ブライダルとビューティを含めた幅広く学べるカリキュラムは、学生の要望として出てきていた。また、就職先を考えた際にもブライダルとビューティを強化することによって、より専門的な分野に就職することが可能になる。他校の状況を調べてみると、ドレスコーディネーターなどの職に就いている学生が毎年どの学校にもいる。この分野も本校の学生が就職可能な分野である。その他にも本校の学生が就職できる企業・職種があり、その開拓を行うとともに学生募集に繋げることを次年度より開始する。</p> <p>このような実態に合わせると、いかに顧客目線に立って考えられるかは重要なことである。当委員会でも以前、ロールプレイングの重要性について意見があった。それも踏まえサービス接遇検定3級の資格取得を目標としていた授業は、ロールプレイングが試験に含まれる準一級を目標とした授業に再構成した。これからは学生が望む楽しい授業だけでは通用しない。今後は実際の現場に行き、サービスについての実習を授業に取り入れる予定である。その際、顧客目線に立って考え、常に反応を意識できることを重要視して授業を行ってほしい。それが人と接することへの苦手意識を持たずに売り場を作ることができる人材に繋がっていくと考えている。</p>
<p>⑤意見委員(安委員) 地域に密着した活動も人との関わりを考えていてとても良い。18歳から20歳くらいのアルバイトが入ってくるが、共通しているのは応用が利かないマニュアル人間だということである。顔を見て人と話ができない。つまりと自分の意見だけ主張する。やはり実践が大事だと感じている。お客様一人ひとりを大事にして満足いただき次に繋げる。プレゼンテーションも同じで、相手はどう受け取るかを考えることが必要である。そこに力を注げる人材になってほしい。人との関わりを教えられると良い。</p>	<p>◆全学科全学年 授業名：プレゼンテーションが必要な授業 平成30年度授業より取り入れる</p> <p>⑤この意見を受け、考えなければならないことは、まずプレゼンテーションの方法である。相手はどう受け取るかを考えることは非常に重要であり、全学科全学年のプレゼンテーションを聞いても、それを考え伝えられているかは個人差がある。プレゼンテーションに説得力を持たせるためには、相手の立場で物事を調べられているか?それに合わせて表現しなければならぬことが形になっているか?それを相手に分かりやすく伝えられているか?これが成立したプレゼンテーションは高い評価を得ている。デザイナーや提供する側は自分の好みを伝えるだけでは意味がない。独りよがりなプレゼンテーションでは、その作品の意図を理解してもらうことは難しい。教務部の反省点でも同じ内容が挙げられていたので、次年度はそれを反映させた授業運営を行っていく予定である。</p> <p>もう一つは、自分の考えだけを主張することである。個々に考え方が異なるのは理解できるが、自分の答えだけが正しいと思ってしまう。様々な考え方があり、その中からどの考え方が相応しいのかを検討し取捨選択できると良いのだが、他の意見を聞き入れようとせず、完結させてしまう学生もいる。自分の考えだけで作品を制作しており、プレゼンテーションも相手の事や周りの状況を踏まえて伝えることが出来ない。一度そうなると、次学年でも同じことを繰り返し、作品から成長を感じられない。そのまま社会人になってしまい、上司の意見を受け入れなかったり、周りの人の話を素直に聞けなかったり、本人のマイナス評価に繋がってしまう。クリエイティブな仕事に限らず、社会人として生活していく上でも大切なことである。講師の先生方からも相談される内容で、これを学生に理解させることも学校の指針の一つとしていかなければならないと考えている。</p>
<p>⑥意見委員(杉浦委員) ファストファッションが台頭してきたことで販売員の役割が変わってきている。販売員が自分から客に話しかける必要がない。客側が声をかけない限り気が付かない。自分の店舗では30坪くらいの店舗に販売員が2,3人おり、アプローチから見送りまで、客のニーズを読み取り、付加価値のある販売員として育てている。それができないならネットショッピングと同じである。今は単価を安く、売れるものを作る傾向にある。安いことが悪いわけではないが、ファッションが廃れるのではないかという不安はある。販売員を希望している学生はどんな販売員になりたいのか。最近人を雇ったが、言葉遣いもできないし電話対応もできない。まず大人ときちんとした口がきけない。だから売り場にすぐ出せない。ロールプレイングの授業を実際に見てみたい。ファストファッションの店員を育てるのではなく、本当にファッションの好きな人を育ててほしい。</p>	<p>◆ファッションコーディネート学科全学年 授業名：作品制作を行う授業 平成30年度授業から取り入れる</p> <p>⑥サービス接遇資格や実践的な教育を受けたとしても、売り場に立っているだけの人材では、アルバイトや登録社員と変わらない。ファッション業界は更にウェブショッピングが盛んになり、ファストファッションがますます台頭を表すであろう。そんな生存競争の激しい社会の中で、他との違いを出すためには、本当にファッションが好きで人材を育てることがとても重要なことだと考えている。</p> <p>これは作品制作等にも繋がるが、楽しんで制作して出来上がった作品は、評価が高いものも多く、その学生が社会に出ても活躍できる人材であるということを伝える力がある。それは学校で指導をして初めて養われるものではなく、自らが持つマインドの問題だと感じる。クラスにそのマインドを持っている者が多くいる場合、クラス全体の作品のクオリティも上がり、検定試験の合格率も上がる。いかに、高いマインドを持った学生を増やせるかが学校運営として重要なのかも知れない。</p> <p>そういった気持ちを持った学生だったからこそ卒業生は自分のやりたい仕事を見つけて働いているし、それに対する効果も得られていると感じている。学生には、その気持ちを持つことによって作品も良くなり良い就職先にも出会えることを知って欲しい。学校としての考え方が学生に伝わるような機会をこれからも検討していきたい。</p>

	◆全学科全学年 授業名：チームプレーを取り入れられる授業 平成30年度より取り入れる
⑦意見委員(高橋委員) 業界人を囲む会でインテリアデザイン学科2年生に、一般的なインテリアコーディネーターの実際の仕事の話をした。大切なのは誰のために仕事をするのかということ。インテリアコーディネーターは華やかな仕事に見えるかもしれないが、人と接する仕事なので、人間形成に重点を置いてほしい。技術と資格はある。あとは人の顔や声のトーンを読んで、自分のやりたいことを押し殺して誰かのために仕事をするができるようになってほしい。卒業したばかりだと駆け引きは難しいかもしれないが、インテリアも接客業だということを認識してほしい。もう一つは、自発的に行動できる人間的なリーダーを育成するプログラムを入れてほしい。その中でリーダー、サブリーダーを構成していく。会社に入って初めからリーダーにはなれない。最初から自分のやりたいことはできないかもしれないが、リーダーを任せられればできるという人材になってほしい。	⑦学生はこの意見を重く受け止めてほしい。仕事はもちろん自分のためにするのだが、デザインの仕事は世のため人のためにある。接客をしないで成立する仕事はなく、人と人との結びつきによって生まれていく。人との接し方が上手でなければ、仕事が成立するところまで話が進まない。社会人にとって対人スキルはとて重要であることを学生に理解させ、伝えていかなければならない。 学生は社会人になった時のイメージを持つことが苦手である。コーディネーターとしての技術を学んで、それを生かす仕事に就いた後、自分の好きな事だけができると漠然と思っている。だが、仕事を取れなければ最終的に求められる人材にはなれない。社会人としての心構えは専門学校生として修得しなくてはならない重要な内容であり、それを伝えられるような指導をこれからも考える必要がある。 また、リーダーの育成に関しては、次年度から取り入れようと検討していた内容であった。本校では講師会を年二回行っている。数年前から、これからの時代に合わせてどのような人材が求められていて、教育プログラムをどのように考えていかなければならないのか話し合ってきた。平成29年度後期講師会では、意見をまとめる作業を行い、次年度からの教育方針をまとめた。学校の考え方としては、リーダーシップ=チームワークであった。仕事とはチームワークで行うものであり、その中でリーダーがいて、仕事によってはフォローに回る時もある。チームワークを学ぶことは社会での働き方にもつながる内容である。このようなプログラムを教育内容に落とし込むことによって、社会適応能力が上がると思われる。次年度の授業運営に取り入れて今の時代に求められる人材育成を行っていく。
	◆全学科全学年 授業名：就職活動に関わる授業等 平成30年度より取り入れる
⑧意見委員(横須賀委員) 授業の方法改善については企業などと連携が増えていくことで経験値が高くなっていくと思う。インテリアの就職率は100%とのことだが、離職率は何%くらいなのか。 新卒の新入社員は辞める人が多い。企業としての魅力がないのか、学生の我慢がきかないのか。PCスキルはあるし、技術力もあるので言われたことはできる。コミュニケーション能力は就職してからという部分もあるのかとは思っているが、3年後、5年後、10年後というビジョンを持って仕事をしているかが大切なことで、将来的に独立して仕事をしていくのか、企業の中で頑張っていくのか、そういった自分の将来のビジョンを持つことが必要である。そういったことをディスカッションするなどの授業を増やすと良いのではないのか。	⑧離職率については、しっかりと調べる必要があると考えている。それは、学校の授業運営プログラムにも反映しなければならぬ。社会人になれば、退職するときも自分の考えで決断することは当然のことなので、学校が企業に行き情報を得られるような活動をする必要だと感じている。その際の企業から聞く話しにも重要な内容が含まれているので、それをしっかりとまとめられるようになれば、また学校の骨子へと繋がると思うので、企業を回る際には心掛けて行動していきたい。 また、新卒者として働き出す時に大きなギャップがあることも伝えていかなければならない。講師会でも話し合いを行ったことがあるが、社会を全く知らない学生が自分のやりたい事だけができると思っただけで就職したものの、実際に割り振られる仕事と違っては限らない。更に、初めての環境で社会人としての人間関係に触れ、社会の厳しさを知るとともに、今まで好きにやっていた状況とのギャップを感じてしまい、それについていけず心半ばで退職してしまうという現実がある。企業としての魅力がないという訳ではなく、やはり将来のビジョンが見えていないからだと考えられる。好きだという気持ちだけではどうにもならないこともある。厳しい現実の先には、選んだ職業を目指してよかったと思えるビジョンを伝える機会も必要だと感じた。業界の方々から話を聞く機会も設けてあるので、その際に伝えられるようにプログラムするか、働き方のビジョンや厳しさ、業界が求める人材像を教えて貰える機会を別に設けるなどを検討したい。学校だけで終わるのではなく、業界に入ってから活躍できる、業界自体を盛り上げられる人材育成を心掛けていきたい。

平成29年度 第2回教育課程編成委員会(2月13日)の活用状況

教育課程編成委員会等の意見	活用状況
	◆広告プロモーションデザイン3年 授業名：修了制作にかかわる授業 平成30年度授業より取り入れる
①意見委員(倉田委員) 広告プロモーションデザイン学科とインテリアデザイン学科が一つのテーマで提案するメリットが良く伝わってきている。デザインというものは幅広く、グラフィックや建築に限らず、ものをどう見せるかということが大切である。そういった意味では良い課題の出し方をしている。昨年度以上にまとまりがあり、全体的には良くできていると感じた。あえて言えば、既存の決まりや仕組みに則った広告になっている。例えば、インスタ映えを狙う、SNSを使用する、というのは王道ではあるが、それに何かプラスして、仕組みそのものを提案できると良い。キャラクターの提案にしても、本当にゆるキャラは必要なのか、キャラクターに代わる何かがないか、他の提案が学生からあってもいい。その際は次の切り口を認めてあげてもいいのではないかなと思う。	①クライアントの要望に合わせた提案だけを行うのではなく、現場の状況等を踏まえ、必要だとすることを提案することが、より評価の高い作品に繋がると感じた。また、提案する幅を広くすることによって、見る人たちがイメージを掴みやすくなる。全体的なデザインの方向性を示せたことが、最終的な表現にまで繋がったと考えている。今回の経験を今後にも繋げていきたい。 また、仕組みに則った広告になってしまっているという指摘には同感である。SNSを利用するだけでは集客や購買意欲に繋がらず、プラスアルファの提案が必要であると感じている。学生のプレゼンテーションを聞いても、SNSを使う場面の提案で終わっているため、それを利用した普及計画までを考えられることが重要である。今後はSNSの活用方法をクライアントに合わせて提案できるように、先の時代を見据えた指導方針が必要だと考えている。
	◆全学科三学年 3年間教育 平成30年度も継続
②意見委員(樫本委員) 1年生はまだ粗さが見えるが、学年が上がるにつれて基礎から3年間しっかり学んだだけはあると感じる。3年生の作品を見る時間が短かったが、ざっと作品をみて、セールスプロモーションゼミのグランピングの提案が見ていて楽しかったし、完成度も高いと思う。どの学科も3年生になるとしっかりした作品を制作していて、3年間教育というところが大きいのだろうと感じた。	②3年間教育の評価を頂けたことは大変嬉しいことである。3年間教育で学校が目標としていることが大きく三点ある。まずは作品のクオリティと作品を作る際のプロセスが社会に出た時に役に立つことを目標としている。基礎力をしっかりと身に付け、グラフィックを使っている表現力、デザインを考えられる力をつけることで、クライアントを説得させられる作品内容になっている。二点目は学生の意識の向上である。良い作品を作りたいという意欲を出し、精一杯の力で作品を制作する気持ちが重要であると考えている。その意識が芽生えれば、社会に出た時にも意欲的に仕事に挑む姿勢が生まれる。良い作品を作ろうとする気持ちがあれば、こだわりが生まれ、自ずと良い作品ができる。このような気持ちを在学中に持つことが出来れば、社会人となってもやりがいを持って働くことができる。三点目は希望通りの就きたい仕事に就職が出来るようになるということである。2年間の専門学校では入学して1年で就職活動を行わなくてはならない。それだと実力もまだついておらず、希望通りの就職先に就くことは難しい。しかし、3年間教育にすることで、しっかりとしたポートフォリオを持って就職活動もできるので、希望する職種へと就職することが出来るようになる。
	◆全学科全学年 授業名：プレゼンテーションに関わる授業 平成30年度も継続
③意見委員(糸井委員代理) レベルが高いというのが素直な感想。1年生から3年生に上がるにつれて精度も上がっていくのが印象的だった。クライアントについてだが、オファーをされているのか。セツ洞公園も森のシェール館も学生はしっかり調べてリサーチしていると感じた。ファッションコーディネート学科の店舗は収支まで見ているか。ファッションコーディネート学科だけでなく、インテリアデザイン学科が店舗の空間デザイン、ファッションコーディネート学科がコーディネートや販売、広告プロモーションデザイン学科がPR・販促部分を担当するなど学科間を越えて動けると費用対効果もあり、学生の就職活動にも活かせるのではないかと感じた。プレゼンテーションについては、きちんとできている学生もいれば、原稿を読んでいるだけの学生もいたため、プレゼンテーションの仕方はもう少し指導が必要と感じた。	③ファッションコーディネート学科が運営する店舗で販売する衣類は、株式会社ユーゴーから譲り受け、ユーズドファッションショップとなっている。そのため、仕入れにかかる費用はなく、収入のみである。ユーゴーが運営する「おさがり専科」では、欲しいユーズド品をクリーニングにかけると、そのクリーニング代のみで衣類を貰えるシステムがあり、そのクリーニング料金を参考に商品価格を設定し販売している。そのため、仕入れの算出は行っていない。収入に関しては、細かく来店者数を分析するとともに、売れた商品についても分析し、次回実施する際の参考にしている。収入の報告や店舗分析については、ショップデザイン研究という授業で各学生の着目点により分析し、まとめている。 ファッションコーディネート学科と広告プロモーションデザイン学科のコラボレーションによる作品制作を行ってみることも面白いと感じた。ファッションコーディネート学科の学生は、グラフィックデザインからWEB制作まで授業を行っている。しかし、広告プロモーションデザイン学科の学生が修了制作のテーマとして、ショップの広告デザインを考えれば、相乗効果も期待できる。学生のモチベーションを考えながら、より良い形で店舗のPRに繋がるよう、検討していきたい。 プレゼンテーションについては、指導が必要な学生はどうしても存在する。しかし、社会に出た時に自分の制作したものを相手に伝えることはデザイナーにとって、なくてはならないスキルである。苦手であっても、自分の想いを伝えることが大切なので、伝える内容をまとめること、また、それを伝える方法を学生全体に指導を続けていきたい。

	<p>◆ファッションコーディネート学科一学 授業名：ファッションコーディネート 平成30年度より取り入れる</p>
<p>④意見委員(杉浦委員) プレゼンテーションをしていた学生は選ばれた理由が分かる。広告プロモーションデザイン学科1年生のプレゼンテーションをした学生の作品は群を抜いて良かった。七ツ洞公園も森林公園も行ったことがあるが、ロケーションはとてよくポテンシャルはあるのに今一つぱっとしなく、常日頃からもったいないと思っていた。こういう建物があったら、こんな看板があったら、パッケージにこんなロゴがあったら、と感じていた。学生の作品がきっかけになってくれたら、もっと七ツ洞公園も森林公園も知名度が上がるので良いと思う。ファッションコーディネート学科の作品は、1年生は子供っぽい印象。学年が上がるにつれて、だいぶレベルが高くなったと感じた。今年度は2年生のディスプレイが良かった。いつもはもっと夢見がちな、少女っぽい作品が多い。バイヤー目線で見るとやはり売れるかどうか、人前に出せるかどうかを見てしまう。リメイクで色々組み合わせて洋服を作るのは時代性から言えば合っている。社会に出て先輩達に揉まれればもっと世界観も広がり、いい仕事が生み出せると思う。これからが楽しみ。</p>	<p>④ファッションコーディネート学科一年生の作品については、テーマに沿ってコーディネートを考えている。女子高生をメインターゲットにした上で、各自のテーマ設定を考えているが、そこに子供っぽさが出てしまっていると考えられる。設定に合わせた表現方法で、商品が売れるためのイメージマップを制作するのではなく、イメージマップ自体を可愛く見せることが目的になってしまい、余計に子供っぽさが強調されているのだろう。プロの目線から見れば、売れる商品を考えているかどうか疑問視されてしまう。イメージマップのボード制作に関しては、一度テーマの設定について検討する必要があるかも知れない。ファッション業界において売り上げは最重要課題であり、それが感じられない作品になっているのであれば、現場では通用しない内容になっているということである。購買力が上がるような作品の完成度を求めていきたい。</p>
	<p>◆全学科全学年 授業名：プレゼンテーションに関する授業 平成30年度も継続</p>
<p>⑤意見委員(安委員) プレゼンテーションは年々上手くなっている。課題に対していろんな視点から分析・調査をしっかりと行って、自分の想いを表現していると感じた。インテリアデザイン学科3年生のプレゼンテーションは良く分析していて、実際に現地に行っていないくても伝わってきた。他の学生の作品もまた違った視点から制作されていると思うので、他の学生の話も聞いてみたい。中には声の小さい学生もいるが、挨拶もしっかり出来ていて、自信を持ってもっと大きな声で元気よくできると良い。ファッションコーディネート学科の店舗は、実際に各々がお店に立って運営してみて、色々意見も出てくると思う。次回は更に良いものができることを期待している。収支結果もぜひ教えてほしい。</p>	<p>⑤先輩のプレゼンテーションを見ることで、後輩にそれが受け継がれている。そこにオリジナリティをプラスすることによって、先輩のプレゼンテーションのクオリティを超えるものが生まれる。継続的に実施している結果が出ていていると感じている。インテリアデザイン学科3年生のプレゼンテーションに限らず、全学科の作品制作においても、現地の分析をしっかりと行い、課題を発見し、それを解決する提案をすることで、提案する場所やクライアントに合わせた作品を制作することが可能になる。それらの過程をしっかりと踏まえて、納得のいく作品を作れるようになれば、自分の作品に自信が持て、それが相乗効果となり、プレゼンテーションにも自信を持って臨める。また、経験を積むことでプレゼンテーションの技術は上がるので、引き続き指導していきたい。</p> <p>ファッションコーディネート学科の学生によるオリジナルショップの運営は、まさに生きた学習教材となっている。売れたか売れないかの結果については分かり易く反応を見る事ができるが、お客様が実際にショップに訪れた時に交わす会話、お客様の声こそが学生の刺激となり何よりの勉強となっている。毎回、状況報告レポートをまとめており、協力いただいた企業にも報告している。それらを元に次年度のショップ運営を行う際に更に良いものができるように反映させていきたい。</p>
	<p>◆全学科全学年 授業名：修了制作に関する授業 平成30年度も継続</p>
<p>⑥意見委員(高橋委員) プレゼンテーションを含めて出来栄が良い。インテリアデザイン学科について、題材が七ツ洞公園と森林公園ということで、どちらも自然を大事にした設計をしていると感じた。客層は違うと思うが、どちらも現在の客層を大事にしながラスアルファで集客を増やす、活気づけたいという目的がある。もっとコンセプトや対象者を明確にして、クライアントに本当に使ってもらえるような提案を考えられるとよい。公園は雨の日に人が来ないということ逆手にとって、雨の日の七ツ洞公園、森林公園を楽しむためのイベントを考えてもよい。パークセンターは総合案内所のような意味合いで、場所によっては行かなくてもよい場所になってしまう。そこを通らないと公園に行けないとか、素朴な建物にして公園に行くまでのワクワク感を演出してみるとか、公園の顔になるようなパークセンターの提案をしてもいいのではないかなと思う。森のシェール館で残念だったのは1階の工場なのだが、利用客が少ないので重要視しなかったということなのだろうか。横浜のカップラーメンミュージアムは体験が出来ることで毎日満員だが、子供は少しでも何か作れるだけで楽しい。やはりアピールの仕方が大切だと思う。そこも含めて、あそこに行くことと楽しいことができるというエリアの配置、SNSなどを上手く利用して広告を発信できると、自然を楽しめるもっと素晴らしい公園になるのではないかなと感じた。</p>	<p>⑥クライアントに本当に使って貰っている事例もある。それを実際の制作物として使用する場合には何点かの注意事項がある。企業の一利益に繋がる内容の場合は受け入れをお断りしており、学生のアイデアが利益のために使われないようにしている。さらに、学生が制作する場合は報酬が発生しないため、デザイン業界の仕事の領域を侵し、邪魔をし兼ねない。そのため、行政や地域団体など商売を生業としていないところと連携を図ることが多い。また、学生の作品は詰りが甘い部分もあるため、そのまま使用出来るわけではなく、手直しが必要となる。プロが仕事として制作する際のクオリティを学生の作品にも求めなくてはならない。実際に使用する際は、条件として必ずプロである講師に手直しをお願いしており、授業終了後も指導いただき、学生にブラッシュアップをさせて、実際に使用するに値する制作物に仕上げている。</p> <p>また、学生が制作した作品にも著作権が発生するため、それを自由にアレンジして使うことはできない。それらのルールを契約書として交わす必要があり、本校が進める連携課題では、必ず協定書を作成して学生の著作権を守る仕組みになっている。様々な条件をないがしろにすることなく、学校が行政や地域団体と連携して作品制作を行う際には、一定の規律を守りながら、学生指導を行う必要がある。</p>
	<p>◆全学科全学年 授業名：修了制作に関する授業 平成30年度も継続</p>
<p>⑦意見委員(小川委員) プレゼンテーションは委員になった当初に比べて上手くなっている。相手に伝えようと頑張っている姿勢が見えた。学生に与える課題については学校の努力を評価したい。インテリアデザイン学科と広告プロモーションデザイン学科が七ツ洞公園と森のシェール館で同じ題材に取り組むのは合理的だし、インテリアデザイン学科が建築物、広告プロモーションデザイン学科がPR・広報と総合的にクライアントにも伝わりやすい。同じ題材で、学年を越えて交流はあるのかと思いい、プレゼンテーションをしたファッションコーディネート学科3年生に質問をしたのだが、個々によるが自分は1、2年生のことも考えて作品制作をしたと言っていた。同じ題材であれば学年を飛び越えて、先輩は後輩のことを考え、後輩は先輩を意識して制作に取り組めるとよい。学年を越えて交流を持てると良いのではないかなと感じた。今後についてだが、題材を見つける際には地域創生ということを考えてほしい。国も県も市町村も何をしたらよいのか考えあぐねている。地域創生は自分達の地元にあるいいものを見つけてPRし、発信することで集客して地域の活性化に繋げるということだが、地元の人には地元で昔からあるものだから発信する程のものではないと思っている。学生なので実現するかどうかは別として、学生の若い新しい目線で地域創生ということを大きな目的として取り組んでほしい。</p>	<p>⑦学科を超えて交流するイベントなどの機会はある。しかし、学科を超えて同じ土俵で作品制作を行う機会はない。理由として、スケジュール的な問題がある。どちらかが終わらないと進むことができないなどの問題があり、同じ課題に取り組むことは現段階では難しいと考えている。しかし、学科を超えて同じ課題に取り組むことが出来るのであれば、それは現場でも求められるスキルであり、そのプロセスを学ぶプログラムは学生にとっても必要な学習であると捉えている。</p> <p>また、課題設定を考える際に地域創生はとて学習になる設定だと考えている。本校が最終的に学生に身に付けさせたいスキルは「問題解決力」である。自ら課題を発見する力とコミュニケーションを図りながら問題を解決する力を身に付け、それをデザイン力で表現出来れば、社会に出て求められる人材になれる。地域創生を考えるときには、その場所やそこに関係する人々の事を考えて、必要なデザインの制作物を作らなくてはならない。それを作るためのプロセスは、学生にとって最高の学習教材となる。難しい課題になるとは思うが、その課題を行う場所に魅力があれば、学生らしい提案ができると思っている。地域創生を題材に課題制作を行えるチャンスがあれば、ぜひ取り組んでいきたい。</p>

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
 本校は教育方針として、「職業実践主義」「プロセス・表現主義」「デザインマインド教育」の三つを掲げている。特にデザインプロセスの実践的学習として「情報収集」→「分析」→「企画」→「デザイン制作」→「プレゼンテーション」までの流れを体験的に学習することは、上記の教育方針を総合的に理解することができる。そのために、地域においてデザインを必要とする企業・団体・自治体と連携して学生に「現実的テーマ」を与え、担当講師の指導の下、一連のデザインプロセスについて質の高いデザイン力を習得することを目的として実習・演習を行うことを基本方針とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

インテリアデザイン学科1年

企業・団体等 連携課題 実施報告書

平成29年度 修了制作

課題名	公園とともに暮らす住まいの提案	
レクチャー・視察日	平成29年9月11日(月)9:30~12:00 水戸市七ツ洞公園 園内にて	
レクチャー対応	水戸市 都市計画部 公園緑地課 緑化係 係長 小坂部 勝久様、主事 小野瀬 亜耶様	
レクチャー・視察参加者	講師: 藤田 直樹 先生、雨川 充宏 先生、飯島 洋省 先生 教務: 荒井部長、塙、藤咲 インテリアデザイン学科 1年 11名 (3年 7名も参加)	
中間審査会実施日	平成29年11月16日(木)10:30~12:10 本校2F L201教室	
中間審査会参加者	連携団体: 水戸市 都市計画部 公園緑地課 緑化係 係長 小坂部 勝久様、主事 小野瀬 亜耶様 ニコスタンパ合同会社 代表社員 中川 大輔様、磯崎 俊成様 講師: 藤田 直樹 先生、雨川 充宏 先生、飯島 洋省 先生 教務: 荒井部長、川上、藤咲 インテリアデザイン学科1年生 全員 11名	
中間審査会発表学生	全員 11名	
プレゼンテーション①実施日	平成30年1月15日(水)9:00~12:10 本校2F L201教室	
プレゼンテーション①参加者	講師: 藤田 直樹 先生、雨川 充宏 先生 教務: 荒井部長、川上、藤咲	
プレゼンテーション①発表学生	インテリアデザイン学科 1年 全員 10名 (10名発表した中から最終プレゼンテーション発表学生4名の選抜)	
最終プレゼンテーション実施日	平成30年2月16日(金)14:00~16:00 本校6F L601教室	
最終プレゼンテーション参加者	連携団体: 水戸市 都市計画部 部長 村上 晴信様、 公園緑地課 課長 上田 航様、緑化係 係長 小坂部 勝久様、主事 小野瀬 亜耶様 ニコスタンパ合同会社 代表社員 中川 大輔様、磯崎 俊成様 講師: 藤田 直樹 先生、雨川 充宏 先生、石井 邦明 先生、飯島 洋省 先生、益子 和明 先生、小池 隆夫 先生 教務: 入江学院長、荒井部長、川上、藤咲、白石 飯野綺華、木村亜海、黒沢涼平、小松千咲 選抜 4名(10名中)	
最終プレゼンテーション発表学生	受賞者 水戸市長賞: 黒沢 涼平(くろさわ りょうへい)	
審査会実施日	平成30年2月17日(土)10:00~11:40 本校2F L201教室	
審査会参加者	審査協力団体: 茨城県における建築・建設5団体の代表者 茨城県建築士会代表 常務理事 高槻一雄 様 茨城県建築士事務所協会代表 副会長 小室克己 様 日本建築家協会会長 河野正博 様 茨城県建設業協会代表 松浦一久 様 茨城インテリアコーディネーター協会 会長 高橋琢 様 本校講師: インテリアデザイン学科担当 12名参加 学校関係者評価委員: 水戸ステーション開発 安藤理 様、茨城インテリアコーディネーター協会 高橋琢 様、関根工務店 関根貴雄 様 根本建築設計事務所 阿久津裕司 様、株式会社光和印刷 岡田寛和 様 卒業生代表: 建築系企業で働く卒業生 1名参加	
受賞者	茨城県建設業協会賞: 黒沢 涼平(くろさわ りょうへい)「Coloring space」 1年次修了制作部門 最優秀作品賞: 生田目 幸祐(なまため こうすけ)住まう楽屋」	
作品展示期間・場所	修了制作展(平成30年2月10日~18日)本校2F L201教室	
成果の評価	<ul style="list-style-type: none"> インテリアや建築の基本である住宅の計画についてプログラム・コンセプト・ダイアグラム等をワークシートをもとに分析し、実践的にプロセスを学習することができた。 視察においては、団体担当者より七ツ洞公園についてのレクチャーを受け、現状について詳しく知ることができた。また、中間審査会や選抜者決定のためのプレゼンテーションも快くご対応いただき、学内だけでは補いきれない内容もご指導いただけた。 今年度は例年と異なり、学生1人1人が異なる敷地に計画を行うことで、土地の使い方、景観などを各々が考え独自性のある設計を行うことができた。 「水戸らしさ」「水戸に建てる意味」を重点におき考えたことで、その土地にしか計画できない建物を考えることの重要性、難しさを知ることができた。 途中経過を発表する機会(中間審査会)を設け、現在までの考えを発表し、具体的な助言を頂く事で方向性の確認や不足している部分について補うことができた。 昨年の反省から、インテリア計画(カラスキーム)やパネル表現向上のため、関連授業を追加することで、完成度の向上に努められた。 連携団体からの評価に「コンセプトが面白い」「テーマと建物があっている」「公園とマッチしている」とのコメントを頂き、学生らしい提案と実践的な学修ができたと感じる。 代表プレゼンテーションの様子は、新聞の取材があり、学校自体のPRに繋がったと感じている。 	<p>学修成果の評価</p> <p>制作スケジュール</p> <p>社会への貢献性</p> <p>コミュニケーション力</p> <p>企画力</p> <p>デザイン力</p> <p>プレゼンテーション力</p>
反省点	<ul style="list-style-type: none"> 表現力(とくに模型制作)の向上をはかる必要がある。 プレゼンテーション力については、経験を積み向上していくことが必要である。 	
外部作品展	第4回茨城学生建築展 主催: 一般社団法人茨城県建築士事務所協会 会期: 平成30年2月22日(木)~25日(日)10:00~16:00 会場: 笠間の家(笠間市下市毛79-9)	
外部作品展 出品者	飯野綺華、黒沢涼平 選抜 2名(10名中)	
教務対応担当	荒井・川上・藤咲	

企業・団体等 連携課題 実施報告書

平成29年度 修了制作

課題名	森のシェーブル館 再生計画	
レクチャー・視察日	平成29年8月30日(水)10:00~12:00 水戸市森林公園森の交流センター大ホール、課題設定地(森のシェーブル館周辺)	
レクチャー対応	一般財団法人水戸市農業公社 次長 羽方寿秀様、乳製品係 技師 小川 真二様、業務係 松本 弘美様	
レクチャー・視察参加者	講師:杉浦良幸先生、飯村信子先生、 道川慎一先生、船橋範行先生、立原裕之先生、小池隆夫先生 教務:荒井部長、藤咲 インテリアデザイン学科 2年 13名 (広告プロモーションデザイン学科1年19名 3年27名も参加)	
中間審査会実施日	平成29年12月5日(火)13:00~16:10 本校2F L201教室	
中間審査会参加者	連携団体:水戸市農業公社 専務理事 三宅 正人様、事務局長 久米 茂様、 次長 羽方寿秀様、乳製品係 技師 小川 真二様、業務係 松本 弘美様 講師:加藤誠洋先生、杉浦良幸先生、飯村信子先生 教務:荒井部長、川上、藤咲	
中間審査会発表学生	インテリアデザイン学科 2年 全員 13名	
プレゼンテーション実施日	平成30年1月16日(火)10:00~16:30 本校2F L201教室	
プレゼンテーション参加者	講師:加藤誠洋先生、杉浦良幸先生、飯村信子先生、飯島洋省先生 教務:荒井部長、川上、藤咲 (3年 7名も同会にて発表)	
プレゼンテーション発表学生	インテリアデザイン学科 2年 全員 13名 (13名発表した中から代表プレゼンテーション発表学生4名の選抜)	
最終プレゼンテーション実施日	平成30年2月15日(木)14:00~16:00 本校6F L601教室	
最終プレゼンテーション参加者	連携団体:一般財団法人水戸市農業公社 専務理事 三宅 正人様 事務局長 久米 茂様、次長 羽方 寿秀様、乳製品係 技師 小川 真二様、業務係 松本 弘美様 講師:佐藤正和先生、道川慎一先生、船橋範行先生、立原裕之先生、小池隆夫先生、 加藤誠洋先生、杉浦良幸先生、飯村信子先生 教務:入江学院長、荒井部長、川上、藤咲、白石	
最終プレゼンテーション発表学生	秋山大治朗、石川 大空、栗田ひかる、芳賀みなみ 選抜 4名(13名中)	
受賞者	水戸市農業公社賞:栗田 ひかる(くりた ひかる)「繋ぐ 繋がる」	
審査会実施日	平成30年2月17日(土)10:00~11:40 本校2F L201教室	
審査会参加者	審査協力団体:茨城県における建築・建設5団体の代表者 茨城県建築士会代表 常務理事 高槻一雄 様 茨城県建築士事務所協会代表 副会長 小室克己 様 日本建築家協会会長 河野正博 様 茨城県建設業協会代表 松浦一久 様 茨城インテリアコーディネーター協会 会長 高橋琢 様 本校講師、インテリアデザイン学科担当 12名参加 学校関係者評価委員:水戸ステーション開発 安藤理 様、茨城インテリアコーディネーター協会 高橋琢 様、関根工務店 関根貴雄 様 根本建築設計事務所 阿久津裕司 様、株式会社光和印刷 岡田寛和 様	
受賞者	卒業生代表:建築系企業で働く卒業生 1名参加 茨城県建築士会賞:石川 大空(いしかわ おおぞら)「AREGANE TREE」 茨城インテリアコーディネーター協会賞:芳賀 みなみ(はが みなみ)「go to Forest」 2年次修了制作部門 最優秀作品賞:秋山 大治朗(あきやま たいじろう)「樹洞 LIRO」	
作品展示期間・場所	修了制作展(平成30年2月10日~18日)本校2F L201教室	
成果の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・視察においては、団体担当者より森のシェーブル館についてのレクチャーを受け、現状について詳しく知ることができた。また、中間審査会や選抜者決定のためのプレゼンテーションも快くご対応いただき、学内だけでは補いきれない内容もご指導いただいた。 ・改修・改築案を考えることにより、既存の建物の構造を理解した上での計画の必要性を学ぶことができた。 ・中間審査会では、団体担当者に向け現在までの考えを報告し、方向性の確認をすることができた。 ・連携団体からの評価に「実現可能性が高いと感じる」「アイデアがおもしろい」とのコメントを頂き、今回の課題設定が上手く学生の学習効果へと繋がる結果になった。 ・代表プレゼンテーションの様子は、新聞の取材があり、学校自体のPRに繋がったと感じている。 	<p>学修成果の評価</p>
反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・表現力(とくに模型制作)の向上をはかる必要がある。 ・プレゼンテーションにおける話の構成や流れについては勉強する部分がある。 ・1Fが既存のままの利用が条件だった為、1Fへの動線計画が難しくなってしまった。 ・店舗の規模が小さい為、改修案が出にくい状況になってしまった。 	
外部作品展	第4回茨城学生建築展 主催:一般社団法人茨城県建築士事務所協会 会期:平成30年2月22日(木)~25日(日)10:00~16:00 会場:笠間の家(笠間市下市毛79-9)	
外部作品展 出品者	秋山大治朗、石川大空 選抜 2名(13名中)	
教務対応担当	荒井・川上・藤咲	

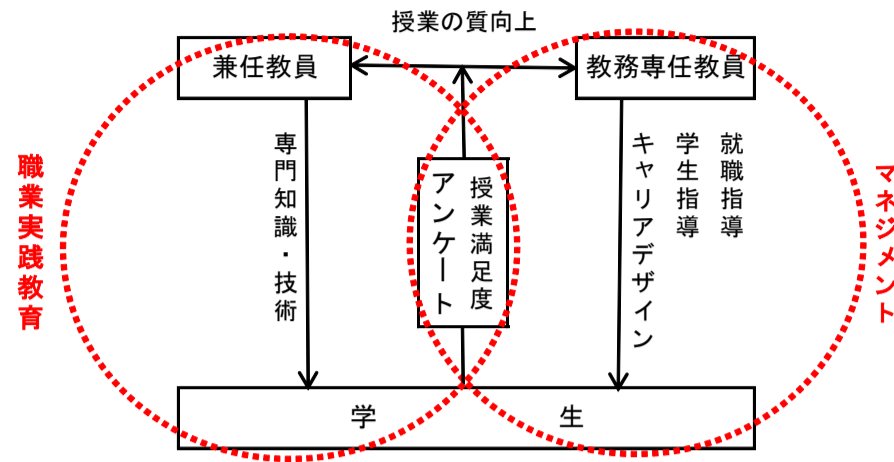
(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
インテリアデザイン実習	年間の総合進級課題。住空間のデザインを基本計画・設計製図、模型、パース、インテリア表現。	水戸市都市計画部公園緑地課
インテリアCAD I	ベクターワークスによる作図手順の解説と作図演習。3DCADにて立体表現を行う前の図面知識を修得する。	
ショップデザイン実習	商業施設を中心とした修了制作課題(ショップデザイン提案)コンセプト設定~各種図面、インテリア表現、プレゼンテーション技法。	一般社団法人水戸市農業公社
インテリアCAD II	ベクターワークスにより、実際にショップデザインを行う際の3Dパースを作成する。	
プレゼンテーション II	Adobeのイラストレーター・フォトショップ 使い、実際にショップデザインを表現する。3Dパースに付加価値をもたらす技術を身に付ける。	

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

本校は、下記図のように、実務に関する知識、技術、技能に関しては「プロの兼任教員」が教授し、学生に対する様々な指導、マネジメントに関しては教務専任教員が担当している。



デザインは、教科書的にまとめられる領域は少なく、実務実習型の授業がほとんどである。従って、授業を受け持つには、例えば、広告デザインの分野では、デザイン構成やDTP技術はグラフィックデザイナーが教え、カラーコーディネートはその有資格者が教え、Webデザインは、Webデザイナーが教えている。インテリアデザインの分野では、設計製図は一級建築士が教え、インテリアコーディネートはインテリアコーディネーターの有資格者が教え、3DCAD(3次元パース)は建築士の中でも、その技術を習得した者が教える。エクステリアデザインに関しては、造園業にも精通したプロが教えるという具合である。また、本校のファッションコーディネートは流通小売業の分野を学ぶもので、商品知識、接客、仕入れ、ディスプレイ、経理、はもとより、ネイルアート、フラワーコーディネート、ラッピング、雑貨・ファッション小物制作等、それぞれの専門的授業に対して、その分野のプロが授業を受け持つことが必要になる。専任教員が教えられる領域を、はるかに超える授業内容である。このような観点から、本校は、ほとんどの授業においてその分野で活躍するプロの兼任教員が授業を担当し、学生の職業実践的能力を高めている。

また、教務専任教員は、学生指導・就職指導能力を高めるため、企業人事担当者を訪問し人材ニーズを把握するとともに、企画立案及び打合せを通して実践的な指導力を高めている。さらに、キャリアデザインを通してマインド教育や職業人育成に努めている。プロの兼任教員と教務専任教員が相乗的に教育指導に当たることにより、知識・技術・人材教育をトータルに行う職業教育が可能になっている。

上記の指導体制を基に、「職業に関連した実務に関する知識、技術及び技能についての研修等」は、本校が重要視しているデザインのプロセスを教育するために、企業や行政にご協力を頂き教員が一堂に集まる教員会等で意思の疎通を図りながら組織的及び計画的に取り組み実施している。それぞれの担当する科目の視点よりレクチャーを受けられる機会になっている。「授業及び生徒に対する指導力等の修得・向上のための研修等」は、企業・外部講師・ハローワークにご協力頂き、組織的及び計画的に受講させるため、年間研修計画のスケジュールに基づき実施している。また、諸規定等では、年間研修計画により「職業に関連した実務に関する知識、技術及び技能についての研修等」並びに、「授業及び生徒に対する指導力等の修得・向上のための研修等」が、教員に対し必ず受けなければならない研修となっている。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

組織的に位置図けられた研修等の対象、内容、期間については、企業や行政等との連携を行う授業がメインとなる。内容は、インテリアデザインの分野においても、デザインのプロセスの部分が重要となる。昨年度の研修では先ず初めに、形を作る前に環境や風土を読み解くことが大切になるため現場より求められている内容を説明頂いた。次に、現実的な空間や機能が最終的な完成を見せる前に需要に沿った内容になっているのかを中間的なレクチャーを頂いた。最終的には、3Dパースや模型等を含む制作を行い相手に伝えるための表現方法を含めデザイン的な要素と機能的な要素を合わせたプレゼンテーションを実施し、その後アドバイス頂いた。期間については、半年間にわたり実施した。

「地域デザインについての研修」

- ・平成29年8月30日 10:00～12:00
講師：一般社団法人水戸市農業公社 次長 羽方寿秀／乳製品係 小川真二／業務係 松本弘美
- ・平成29年9月11日 9:30～12:00
講師：水戸市都市計画部 公園緑地課 緑化係 係長 小坂部勝久／主事 小野瀬亜耶

②指導力の修得・向上のための研修等

生徒に対する指導力等については、キャリアデザインに関連する授業が該当する。就職の指導を行うためには企業の事・マナー・履歴書等の書き方・ポートフォリオ(作品集)の制作など多岐にわたる。昨年度の研修では、5月にハローワークから今の求人情報や施設の利用方法などのレクチャー・7月に業界を代表する方をお呼びして業界について講話・10月にマナー講座を実施している。

「今般の求人状況と就職活動方法の研修」

- ・平成29年5月17日 9:00～10:30
・講師：水戸公共職業安定所 学生ジョブサポーター 青天目ゆかり/宮田真由美

「企業が求める人材像・企業の就職状況の研修」

- ・平成29年7月12日 9:00～12:00
講師：茨城インテリアコーディネーター協会 会長 高橋 琢

「実践的な就職活動方法」

- ・平成29年10月31日 10:40～12:10
講師：学校法人リリー文化学園 秘書室 求人担当 長谷川 なおみ

「教職員の資質、能力の向上、教育的使命感に根ざした指導力向上のための研修」

- 木下晴弘先生特別講演会
・平成29年7月23日 10:00～11:30
講師：株式会社アビリティレーニング 代表取締役 木下晴弘
「あなたが大切に思っている人の心が動く法則
～目からウロコのリーダーシップ」

日本建築学会関東支部茨城支所 環境セミナー

- ・平成30年2月16日 17:30～19:00
講師：株式会社永田音響設計 取締役・プロジェクトチーフ 福地智子
「身近な日常空間の音響設計」

日本建築学会関東支部茨城支所 建築文化講演会
 ・平成30年3月2日 17:00～19:00
 講師: スピングラス・アーキテツ 代表取締役 松岡恭子
 「これからの社会に建築が向き合うべきこと」

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

学校が年度当初に教務会議にて年間研修計画を立案し、その後に企業及び行政とデザインとの関連性について協議を重ね、研修等についての時期と内容を講師の授業計画に合わせ調整し決定する。

「地域デザインについての研修」

・平成29年8月30日 10:00～12:00
 講師: 一般社団法人水戸市農業公社 次長 羽方寿秀／乳製品係 小川真二／業務係 松本弘美
 ・平成29年9月11日 9:30～12:00
 講師: 水戸市都市計画部 公園緑地課 緑化係 係長 小坂部勝久／主事 小野瀬亜耶

② 指導力の修得・向上のための研修等

学校で決められた年間研修計画に合わせて、担当がキャリアデザインとの関連性について各施設や企業と調整を行う。それぞれの研修等には企画書を作成し目的を明確にさせ実施している。学校ではその様な研修等を行う際には、必ず企画書の読み合わせを行い、関係するすべての職員が内容を把握している。

「今般の求人状況と就職活動方法の研修」

・平成29年5月17日 9:00～10:30
 ・講師: 水戸公共職業安定所 学生ジョブサポーター 青天目ゆかり/宮田真由美

「企業が求める人材像・企業の就職状況の研修」

・平成29年7月12日 9:00～12:00
 講師: 茨城インテリアコーディネーター協会 会長 高橋 琢

「実践的な就職活動方法」

・平成29年10月31日 10:40～12:10
 講師: 学校法人リリー文化学園 秘書室 求人担当 長谷川 なおみ

「教職員の資質、能力の向上、教育的使命感に根ざした指導力向上のための研修」

木下晴弘先生特別講演会
 ・平成29年7月23日 10:00～11:30
 講師: 株式会社アビリティレーニング 代表取締役 木下晴弘
 「あなたが大切に思っている人の心が動く法則
 ～目からウロコのリーダーシップ」

日本建築学会関東支部茨城支所 環境セミナー

・平成30年2月16日 17:30～19:00
 講師: 株式会社永田音響設計 取締役・プロジェクトチーフ 福地智子
 「身近な日常空間の音響設計」

日本建築学会関東支部茨城支所 建築文化講演会

・平成30年3月2日 17:00～19:00
 講師: スピングラス・アーキテツ 代表取締役 松岡恭子
 「これからの社会に建築が向き合うべきこと」

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること」

(1) 学校関係者評価の基本方針

本校は、「専門学校における学校評価ガイドライン（平成25年度文部科学省策定）」を踏まえ、学校教育活動や学校運営の状況について企業や業界の役員又は職員並びに卒業生の方に参画頂き、自己評価の結果を評価することを基本として、学校関係者評価の実施及び公表を行い、教育活動や学校運営の改善に取り組むことを基本方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	I 教育理念 II 教育目標 III 教育方針 IV 年度目標
(2) 学校運営	I 学校運営の方針 II 授業計画 III 学校組織のありかた IV 意志決定のプロセス V 業務の効率化
(3) 教育活動	I 学科編成における全学科を通しての共通な特徴 II 各学科の概要 III カリキュラム IV 単位認定・成績評価の考え方 V 資格取得・国家資格に向けた授業 VI 業界との協力体制 VII 企業・団体等連携授業 VIII 業界からの授業成果に関する協力 IX 修了制作展 作品の展示 X 実践的な職業教育（インターンシップ）
(4) 学修成果	I 就職指導の全体方針 II 就職目標設定と28年度報告 III 就職に対する本校の特徴 IV 就職指導体制
(5) 学生支援	I 学生支援体制
(6) 教育環境	I 施設・設備状況 II 防災・災害に対する対応 III 保険の加入
(7) 学生の受入れ募集	I 募集の動き II 広報媒体 III 募集体制 IV 学費
(8) 財務	I 財務
(9) 法令等の遵守	I 個人情報保護 II 学校自己点検・自己評価 III 学生作品と著作権の問題
(10) 社会貢献・地域貢献	I 企業・団体等連携の成果 II 企業・団体等連携の一覧
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

平成29年度 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価結果	活用状況
◆意見項目 評価基準1 教育理念・目的	◆随時対応する 対象: 学校運営 授業:
①評価表より委員意見(関根委員) 将来的なニーズを先読みすることが重要である。	①評価項目3「社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか」や、評価項目5「各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界ニーズに向けて方向づけられているか」の将来的なニーズの把握だが、社会経済の部分では、職業実践専門課程の基準をクリアするために、各分野の団体・企業から委員会を通してニーズを伺っており、それが社会経済の動向を知るための最適な機会となっている。ただ動向を知るだけでなく、実際の社会で求められる人材像にも踏み込み、学校の将来構想を常に検討し、学科の授業内容の構成等へも反映している。業界が求める人材像は常に変化しており、その動向についていかなければ、学校の将来構想は見えてこない。また、各学科の教育目標・育成人材像についても同様である。まずは業界のニーズを知ることが最も重要であり、それを把握するための流れが構築されていけば、常に業界の方向性に合わせる事ができる。本校はそのニーズを捉えられる体制になっており、常に業界に合わせた教育目標と育成人材像を考えている
◆意見項目 評価基準2 学校運営	◆随時対応し、システムの構築は予算化し提案する 対象: 学校運営 授業:
②評価表より委員意見(新名委員) 学生の個人情報の管理は問題ないか。	②個人情報の管理については、情報漏洩のないように資料を使用する際にも必要最低限にし、個人情報記載されている資料を求められた際、そのまま貸出せず、必要な情報のみ転記させるようにしている。また、システムについては個人情報を扱うデータは、外部と接するインターネットのネットワークとは別にすることを計画している。システムの構築については、ある程度設計図は考えられているので、実行に向けて予算化をする必要があると考えている。
◆意見項目 評価基準3 教育活動	◆随時対応と確認 対象: 学校運営 授業:
③評価表より委員意見(新名委) 学生満足度アンケートの調査結果を考え方改善等に活かしているか。	③学生満足度アンケートの調査結果を踏まえ改善等に生かす必要がある。アンケートには、授業内容にまで踏み込んだ記載はされていないが、学生のコメントを読むことで、授業のどのタイミングで不満が出ているかの予想はできる。そのコメントを読み取り、講師の先生方と打合せが必要な場合はアンケート内容を活用している。また、資格対策授業では学生の意見を反映して授業内容を一部変更しているものもある。学生が不満を持っている授業には何か問題を抱えている可能性もあるので、アンケートの内容を熟知する必要がある。その上で一つずつ問題を解決していきたい。
◆意見項目 評価基準4 就学成果	◆引続き対応する 対象: 学校運営 授業:
④評価表より委員意見(関根委員) 日々のコミュニケーションが多くなる様な仕掛けも必要ではないか。	④就学成果を上げるためにはコミュニケーションスキルはとでも重要だと考えている。自己アピール力を備えるにしても相手があつてのものであり、その場に慣れていなければ良いパフォーマンスを残すことはできない。就職活動において、企業は最初から技術を求めているわけではなく、求めているものは人間性であり、一緒に仕事をしたいと思わせるコミュニケーション力を持ち合わせた人材である。また、退学する学生のほとんどは友人とのコミュニケーション不足が原因となっており、その問題が解決しない限りは学校生活に戻る可能性は非常に低い。コミュニケーション力は、これから社会人となる学生にとって、とても重要なファクターであり、学校では少しでも成長できるように仕掛けも考えている。学生から自発的に他学年に渡る交流が必要だと訴えてきており、学生の意思を尊重して新しい仕掛けを検討している。これが成功すれば、事例として次に繋げていきたい。
◆意見項目 評価基準5 学生支援	◆すぐに実施 対象: 学校運営 授業:
⑤委員意見(関根委員) 保護者に対して講演会等を実施した際の出席率はどれくらいか。退学に関して、やはり保護者はすぐ退学することを許すのだろうか。社会人になっても同様に、新卒者が退職したいと申し出てきたときには、既に親に相談して同意を得ているからと、引き留める話もできず終わってしまう。それが新卒者の離職率にも繋がっている。 ⑥委員意見(阿久津委員) 保護者から授業内容に関しての意見は出るのか。 ⑦委員意見(高橋委員) 退学の理由は何か。学ぶ目的や終着点を学校が決めてあげることが良いのではないか。他団体との交流の仕方も大切になってくる。学ぶ意味や働く意味を学生はまだよく理解できない。	⑤⑥⑦保護者の問題は近年の退学理由からも見逃すことができない状況になっている。今までは保護者が壁となり、学生に考えさせるための一つの大きな障害となっていた。そこで悩み、自分を見つめ直す経験が学生を成長させる良い機会にもなっていた。だが、近年は退学という大きな決断を下すにあたって、保護者は学生の意思に任せているから反対しないという状況が多くなっている。良い意味でも悪い意味でも本人の意思を尊重する保護者が増えており、学校としても頭の痛い部分である。退学の判断を学生だけに任せってしまうということは、我慢であったり、考え方であったり、物事の見方であったり、社会人になるために必要なことを学ぶ機会を放棄させていることになる。退学する学生の多くは、社会人になっても通用しないだろうと感じる。学校を辞めることは簡単だが、そういう学生こそ、学ぶことの重要性を感じてほしい。学校と保護者との関係性をしっかりとさせ、必要なことを学ぶ機会を奪わないようにしていきたい。そのためにも、保護者に向けた講演会を実施することになった。学ぶことの大切さであったり、働くことの意味であったり、それに合わせた目的をどのように捉えるかについて話してもらい機会を設けた。その結果、どのように変化するかは未知数な部分もあるが、試行錯誤しながら進めていきたい。
◆意見項目 評価基準6 教育環境	◆計画的に実施する 対象: 学校運営 授業:
⑧評価表より委員意見(関根委員) 項目1の「施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか」に対して、学校評価が「やや不適切」になっているが、そう考えているのであれば改善した方がよい。高校生が学校を選ぶ基準の一つにもなっているだろう。	⑧ここでの評価は、改善していない訳ではない。毎年度、予算を考えて優先順位の高い順で補修や施設・設備の整備を行っている。平成28年度は8階電気室等の屋上部分から雨漏りが確認され、応急処置を行ったが、復旧の目途が立たなかったため、全面的に防水工事を行った。その後の経過も良く、雨漏り等は確認されていない。その他、学生のために設備を整えたい部分もあるが、整備のために授業料が高くなってしまうと本末転倒である。色々な努力をした上で授業料を据え置きにしているので、無計画に整備を行って、授業料が上がることは避けたい。随時整備していくこと、満足してはいけないということ、バランスを考えながら整備していかなければならないといった観点による評価となっている。
◆意見項目 評価基準7 学生の受入れ募集 ◆意見項目 評価基準8 財務	◆随時対応 対象: 学校運営 授業:
委員意見なし	特に意見がないため、学校でよく検討して進めていく。また、学校だけではなくコンサルタントにも平成29年度からサポートしてもらうことになり、安定的な運営と募集を目指している。少子化が進む今般で、本校の存在意義をしっかりと確立させなければならない。平成28年度は募集の基本となる体験入学会の参加者数が減少してしまった。その結果が平成29年度の入学生数にも関係している。健全な運営状況を保ってはいけるが、これが続くと運営的には非常に厳しくなると予想される。そのため、平成29年度からはコンサルタントと協力して運営と募集を強化することとした。

◆意見項目 評価基準9 法令等の遵守	◆定期的実施 対象:学校運営 授業:
⑨評価表より委員意見(新名委員) 著作権帰属の明確化をすること。	⑨⑩⑪委員の意見を見ても著作権については重要な項目であることが分かる。また、企業や団体と連携して授業を行っていく、職業実践専門課程の認定を受けているので、より注意が必要となる。
⑩評価表より委員意見(竹越委員) 著作権についてのより深い理解を学生のうちに身に付けられると良い。	著作権については、本校の顧問弁護士により学生全体に向けて講演を行っている。在学中と就職後で、それぞれ気を付けなければならないことについて話を聞くことができた。学生には難しかったかもしれないが、何に気を付けなければならないのか、またその場合、何を調べなくてはならないのかを知る機会になったはずである。社会人になって、何も知らないままデザイン業務を行うことは非常に危険なことである。著作権に触れるような案件を扱う場合には、今回の講演会を思い出して問題回避できるようにしてもらいたい。
⑪評価表より委員意見(関根委員) 著作権は大きな問題に繋がるので、十分な指導が必要である。	
◆意見項目 評価基準10 社会貢献・地域貢献	◆検討と継続的に実施 対象:学校運営 授業:
⑫委員意見(高橋委員) 学校からの紹介ではなく、自主的に見つけてきたボランティア活動に学生が参加したいと申し出た場合の学校としての参加基準はあるのか。また、授業の欠けは認められるか。成績としての評価は付くのか。	⑫⑬社会貢献・地域貢献については、どこの学生よりも経験できていると自負しているが、高橋委員が言うような、自主的にボランティアに参加している学生は多くない。課題制作や本校の計画している活動のスケジュールを考えると、実際には自主的にボランティアに参加するのは時間的に難しいと感じている。ボランティアへの参加は学生に目的意識をはっきりさせないと、苦痛に感じられない場合もある。また、好きなことを生かせるというだけでデザイン業界に進むのではなく、デザインという分野の社会に果たす役割がとても重要であることを理解するためにも、社会や地域との触れ合いは価値のあることだと考えている。また社会や地域との連携は職業実践専門課程の認定を受けるための項目の一つだが、専門学校を運営する上でも、実践的な授業内容として必要である。学生のほとんどが地元での就職を希望しており、在学中に社会や地域と連携した課題に取り組むことは生きた教材で勉強していることに繋がる。それも意識し、本校の講師は地元で活躍するプロのデザイナーで担っている。
⑬評価表より委員意見(関根委員) 学生の幅も大きく広がるので、これからも連携に力をいれてほしい。	

平成30年度 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価結果	活用状況
◆意見項目 評価基準1 教育理念・目的	◆随時対応 対象:全学科全学年 授業:全授業対象
①評価表より委員意見(関根委員) 今の学生が30代40代になるときに、AIがどのように進化しているのかを常に考えておく必要がある。	①専門職大学等の制度化に関する説明会(平成29年11月6日文部科学省講堂)にて実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関(専門職大学)の制度化の背景の説明時に、人工知能やロボット等による代替え可能性が高い/低い100種の職業について説明を受けたことがあり、切実にAIの進歩を受け止めなければならないと感じている。それに合わせて、平成30年度前期講師会にて今後の教育方針を発表した。学校からはAIが台頭してきても、必要とされる人材育成を目指した学校運営を目指したいことを伝えた。学校からは「問題解決力」を学校で教える授業の目標として掲げた。そして、新しい時代には、問題を提起出来て、デザインの力でそれを表現することを学ばせる必要があると伝えた。これから、大きく時代が変化することは間違いないので、常に時代に求められる人材育成を心掛け、スピードを持って対応することを心掛けていきたい。
◆意見項目 評価基準2 学校運営	◆引き続き対応 対象:学校運営・全学科全学年 授業:作品制作に関わる授業
②評価表より委員意見(新名委員) 教務職員に過度負担をさせていないか。人事管理は大切なので、健康経営を目指して欲しい。	②学校の活動報告を受けて感じられた部分だと思う。本校では、1年単位の變形労働時間制に関する労使協定届と時間外労働・休日労働に関する協定届(36協定届)を提出し、法的に学校が対応できる仕組みづくりを行った。イベント時は、どうしても勤務時間が長くなってしまいが、残業手当として支給したり、検定試験等で休日に出勤する場合には、代休をとれるように仕組み作りをしてある。今後は、デザインの専門学校は資格取得や作品制作などで、どうしても学生が遅くまで残って学習に取り組む期間があるので、労働時間を変動して勤務するフレックス制度なども視野に入れ、働きやすい環境を構築していきたいと考えている。また、働き方改革として三つの項目を立て、電話やメールの使用時間制限、LINE@による学生連絡方法、ネットを使用したスケジュール管理を行っている。
③評価表より委員意見(関根委員) 世の中がコンプライアンス遵守に厳しくなっている。	③コンプライアンスについては、昨年度も意見として出ているように、本校としても重要な項目であると認識している。学校が産学連携を実施する際にも協定書を作成して、学生が制作した作品を目的以外には使用できないようにする他、デザインした制作物を勝手にカスタマイズするような事ができないよう定めている。学校自体としても、コンプライアンスに対しては慎重に考え行動することを重要視して、行動として示せるようにしていく。そして、学生にも、在学中から作品制作を行う上で、デザイン業界において気を付けなければならないコンプライアンスを指導していければと考えている。
◆意見項目 評価基準3 教育活動	◆即対応 対象:全学科全学年 授業:検定試験に関係する授業
④評価表より委員意見(阿久津委員) より先端的な知識として建築雑誌等を見る機会を設けた方が良いと思う。	④阿久津委員から頂いた意見は学校も必要だと感じている。本来は学生自身が自ら欲しい情報を得ることが望ましいが、学校でも定期購読雑誌として学生に最新の業界誌を与えることにしている。また、ギャラリーにも最新の専門誌をいつでも見られるように設置している。
⑤評価表より委員意見(新名委員) 資格試験の合格率が低い資格があるが、指導体制やカリキュラムを再検討する必要があるのではないか。	⑤新名委員より頂いた資格試験の合格率については早急に対応する必要がある。特に力を入れなければならない検定試験は、広告プロモーションデザイン学科では、ウェブデザイン技能検定3級、ファッションコーディネート学科では、サービス接遇検定準1級、インテリアデザイン学科では、インテリアコーディネーター資格試験が挙げられる。 対策としては、広告プロモーションデザイン学科のウェブデザイン技能検定3級は、11月に予定していた受験日を8月の受験日に繰り上げ、前期7月末までに行った対策授業の内容を生かし、学習効果の流れ良く検定試験に結びつけるスケジュールにて実施することになった。ファッションコーディネート学科のサービス接遇検定試験準1級は、次年度より講師の先生を一新し、改めて検定試験対策授業の内容を検討し対応する。インテリアデザイン学科のインテリアコーディネーター資格試験は、今年度の一学年より大きく対策授業のシステムを変更している。インテリアコーディネーター資格試験の試験内容に関わる授業については、資格取得のためのテキストを利用して、検定試験に関わる事を授業内で指導するために、関連する授業の講師の先生には全員テキストを渡している。また、二学年に上がった際には、授業数を増やすことで計画を進めており、後期の授業に対しても合わせて増強している。 検定試験の合格率については、常に注視する事を怠らず、合格率が常に高い数値をキープできるように心がけていきたい。

◆意見項目 評価基準4 修学成果	◆引き続き対応 対象:全学科全学年 授業:ポートフォリオ作成に関わる授業
⑥評価表より委員意見(竹越委員) 学生のポートフォリオが、とても面白い。他の学校の学生よりも工夫を凝らしているのが伝わってきて見ていて楽しかった。(作品展示会の時や、会社に学生が来た時に見た感想)	⑥竹越委員の意見はとても参考になる。学生は持ち運びがしやすいようにコンパクトにまとめたポートフォリオを持参しようとするが、クリエイティビティを求める企業に就職を希望する場合には、持ち運びの事よりも考えなくてはならないことがあり、工夫であったり楽しさであったり、学生それぞれの魅力が伝わるようなポートフォリオを求めなくてはならないと改めて感じた。 有名デザイナーが就職活動を行ったときの話をテレビで見たが、既存概念に全くとらわれていないポートフォリオを持参して、有名広告代理店の方も、そのクリエイティビティを見て即内定が決まったと話していた。それぞれが希望する企業に合わせてポートフォリオを制作する重要性を改めて知る事ができた。今後学生たちが就職活動にて使用するポートフォリオは、就職先の企業に合わせたポートフォリオを制作するように指導を行うことにする。
◆意見項目 評価基準5 学生支援	◆継続的に対応 対象:全学科全学年 授業:就職活動に関わる授業
⑦評価表より委員意見(関根委員) 職種の内容をもう少し学生に教えてあげて欲しい。(以前当社に入社した者が、職人になれると思って入社し、退社してしまった。)	⑦職種を理解させるような試みは実施しているが、しっかりと理解が全ての学生に伝わっているかは未知数ではある。また、学生が職種の内容を100%理解することは難しく、社会に出てから考えていた希望の仕事内容とのギャップを感じている者が多くいると感じている。 職種を理解させる試みとしては、学生たちが希望している職種に合わせて、企業見学会を実施している。その際には、企業の方から実際に行う仕事内容について話を伺い、実際に企業の雰囲気などを知る機会を設けている。もちろん、その時に希望していた職種から就職する際には希望職種が変わることもあるので、一概に学生たちが就職する企業の職種の話しを聞いているとは言えない。しかし、多くの者は二年次で企業見学会を経験して、三年次では各自でアポイントを取って企業訪問を実施しており、より就職したい企業を調べる機会になっている。意欲のある学生にとつては、将来の自分を知る機会にもなるので、学生たちも真剣に取り組んでいる。
◆意見項目 評価基準6 教育環境	◆継続的に対応 対象:学校 授業:
⑧評価表より委員意見(竹越委員) 全階のトイレをウォッシュレットトイレに変更することは、すごく良いと思う。トイレがきれいだと生活がしやすい。 プレゼンテーションルームを設けることも、とても良いことだと思う。教室で実施するよりも、改まった感じが出て良い。	⑧⑨トイレは全階ウォッシュレットトイレへの改修工事は完了した。細かいことではあるが、快適な学校生活が送れるように今後も環境整備に気を使っていきたいと考えている。また、学校関係者評価委員の方より、環境整備についてのコメントを頂いたことは、改修工事を行った事はやはり重要なことであり、実施して良かったと感じている。 プレゼンテーションルームの環境を設けることは、デザイン学校にとってはとても意味のある環境整備だと思っている。今までもプレゼンテーションは力を入れてきたので、環境を整え実施してきたが、専用の設備ではなかったため、プレゼンテーションを行う上で、環境的にはまだ上を目指せる状況ではあった。しかし、今回のプレゼンテーションルームの整備により、環境が整い学生もワンランク上のプレゼンテーションを行うことが可能となった。より分りやすく、見やすく、伝えやすくなった環境は、学生のプレゼンテーションをより際立たせて見せる事が可能になった。
⑨評価表より委員意見(高橋委員) 老朽化している校舎であるが、リノベーションなども学んでいる学生たちの意見を広く聞いて、勉強しやすい、清潔な環境で学ばせて欲しい。トイレ設備の改修は、必須条件であると思うので、文化デザイナー学院らしい環境を期待している。	⑩最後に、防災整備については、毎年度欠かさず点検も行っている。ただ、校舎の築年数が進んでいるため、校舎自体の抱えている問題もある。しかし、今ある設備の点検を行う事や避難訓練の実施、AED使用の講習会など、安全面に対する対応は抜け目なく実施している。 校舎全体の問題になってくると確かに財務内容とのすり合わせも必要になってくる。長期的な計画を学校では考えている部分もあるが、防災についての対応は怠らないように考えている。
◆意見項目 評価基準10 社会貢献・地域貢献	◆継続的に対応 対象:学校 授業:
⑪評価表より委員意見(竹越委員) 学校内部の者以外に、評価を行って貰う事は、学生のモチベーションにも繋がるので良いと思う。	⑪先日、文化服装学院連鎖校協会の総会に出席してきた。その際にも、職業実践専門課程の話になり、この制度の良いところは、外部評価など面倒なこともあるが、職員の意識が変わるところに良さがあると言っていた。それは、学生指導への影響も大きい。職員は学生のために学校を運営している。その職員の意識が変われば、学生への指導も、どのように行っているかの内容にも大きく関わってくるので、自ずと指導内容もレベルアップしてくる。それにより、学生のモチベーションも高まっていく。この職業実践専門課程の認定を受けている意味もしっかりと受け止めている。
⑫評価表より委員意見(新名委員) 連携先の更なる拡大をお願いしたい。	⑫連携先の拡大については、職員の負担を増やすことにも繋がってしまうので、一概に拡大することを目的にすることはベストではない場合も考えられる。ただ、質を高めるという意味では、拡大していく必要があり、常に時代に沿った学習を行い、企業や行政との取り組みを行っていかねばならないと考えている。
⑬評価表より委員意見(関根委員) 社会貢献・地域貢献は引き続きどんどん実行してもらいたい。	⑬社会貢献・地域貢献は、地元のデザイン学校として恥ずかしくないよう、前向きに取り組んでいる。2018年度は2019年度に行われる茨城国体に向け、多くの協力依頼が届いている。そんな中で45年前にも依頼があった、国体開会式の音楽隊の衣装のデザインを今回も依頼されたことは、伝統が継承されていると思うと感慨深い。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年7月23日現在

名前	所属	任期	種別
新名 勝彦	茨城県中小企業団体中央会	平成29年6月12日～平成31年3月31日(2年)	業界団体
岡田 寛和	株式会社光和印刷	平成29年6月12日～平成31年3月31日(2年)	企業等委員
竹越 萌野	アセビデザイン	平成29年6月12日～平成31年3月31日(2年)	卒業生
安藤 理	水戸ステーション開発株式会社	平成29年6月12日～平成31年3月31日(2年)	企業等委員
住谷 強生	株式会社ジェイディーアールスミヤ	平成29年6月12日～平成31年3月31日(2年)	企業等委員
高橋 琢	茨城インテリアコーディネーター協会	平成29年6月12日～平成31年3月31日(2年)	業界団体
関根 貴雄	株式会社関根工務店	平成29年6月12日～平成31年3月31日(2年)	企業等委員
阿久津 裕司	株式会社根本建築設計事務所	平成29年6月12日～平成31年3月31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
 (ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他())・平成30年7月31日
 URL: www.bunka-gakuen.ac.jp

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況」

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校は、基礎的情報をはじめ、本校の特色、教育活動の状況やその成果・実績、また学校運営の状況に関する情報を積極的に企業等関係者に提供することを通し、本校教育の意義・役割等に対する理解を深め、学校内外の実習、就職指導など企業等との連携による活動の充実や、業界のニーズを踏まえた人材育成に向けての教育内容のさらなる充実に取り組むことを基本方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	I 学校の教育・人材の育成の目標及び教育指導計画、経営方針、特色 II 校長名、所在地、連絡先等 III 学校沿革、歴史 IV その他諸活動に関する計画
(2)各学科等の教育	I 広告プロモーションデザイン学科 II ファッションコーディネート学科 III インテリアデザイン学科
(3)教職員	I 教職員数 II 教職員の組織 III 教員の専門性 兼任講師一覧
(4)キャリア教育・実践的職業教育	I キャリア教育・就職支援への取組状況 II 実践的職業教育 実習・実技等の取組状況
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事への取組状況と課外活動 II 教育環境について
(6)学生の生活支援	I 学生支援の取組状況
(7)学生納付金・修学支援	I 学生納付金 II 奨学金について
(8)学校の財務	I 監査報告書 II 貸借対照表 III 収支計画書
(9)学校評価	I 自己評価・学校関係者評価の結果 II 評価結果を踏まえた改善方策
(10)国際連携の状況	I 国際交流 II 留学生の受入れ(出願資格・出願書類)
(11)その他	I 学則 II リリereaカデミーグループに関する情報

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他())
 URL:www.bunka-gakuen.ac.jp

授業科目等の概要

(産業デザイン専門課程インテリアデザイン学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			リビングスタイリスト	インテリアコーディネーター資格試験の商品と販売の分野の範囲となり、リビングスタイリスト資格試験の販売知識を学ぶ。	1通	60	4	○			○			○	
○			スペースデザイン論Ⅰ	敷地の選定、構造寸法、集合住宅の形式と計画、住宅一般の間取りと平面計画。	1前	30	2	○			○			○	
○			住環境デザインⅠ	住宅を建築する上で必要な建築インテリア環境設定を理解する。	1前	30	2	○			○			○	
○			測量実習	測量の解説と敷地の平面測量及び高低の測量実習。	1前	45	1			○	○			○	
○			プレゼンテーションⅠ	スケッチ、デッサンなど基礎的な観察力・発想力を高め、作品のまとめ方とプレゼンテーション力をつける。	1前	60	2		○		○			○	
○			インテリア造形Ⅰ	平面図の立体スケッチ法（展開・立面・パース）を学び建築模型制作の基礎実習。	1前	60	2		○		○			○	
○			インテリアカラー	カラーの基礎知識を学ぶと共に、色彩・明度・彩度など色の特性、イメージのカラープランニング力を修得する。	1前	30	2	○			○			○	
○			インテリアデザイン実習	建築と生活に関わる寸法を把握する。そして、建築空間を考える技法の習得。各種建築物の研究・リサーチ（目的・用途・デザイン・構造等）を建築史より学ぶ。	1前	60	2		○		○			○	○
○			インテリアデザイン製図Ⅰ	図面の機能や読み方から線一本を引く練習から始まり、平面図・展開図・立面図等の作図。	1後	60	2		○		○			○	
合計					科目		単位時間(単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(産業デザイン専門課程インテリアデザイン学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			インテリアCAD I	ベクターワークスによる作図手順の解説と作図演習。3DCADにて立体表現を行う前の図面知識を修得する。	1後	60	2	○			○	○	○	○	
○			インテリア設備	換気・空調・給排水・電気・照明等・各種建築設備の機能。時代のニーズに応えられるインテリア住宅機器の商品知識を学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	
○			インテリア一般構造	各種材料の力学的な強度実験、木材、石材、セメント、コンクリート、金属、塗料等の性質と用途。コンクリートの性質を理解し、実際にコンクリートを作り、破壊する実験をする。鉄筋については引っ張り実験を行う。	1後	45	1	○			○			○	
○			インテリアデザイン実習	年間の総合進級課題。住空間のデザインを基本計画・設計製図、模型、パース、インテリア表現。	1後	60	2	○	△		○	○		○	
○			プレゼンテーション I	実際にショップのデザインを行いながら、相手に考えを表現として伝える方法を学ぶ。	1後	30	1	○			○	○		○	
○			カラーコーディネーター対策講座	カラーコーディネーター3級合格に向けた特別講義。	1後	30	2	○			○			○	
○			インテリア法規 I	建築物を設計する上で必要とされる建築基準法及び関係法令の知識。	1後	30	2	○			○			○	
○			インテリア造形 I	イメージした空間に合わせてインテリア模型を作れるようになり、表現力の高い制作技術を身に付ける。	1後	60	2	○			○			○	
○			インテリアデザイン製図 I	居住施設の配置、平面、断面、展開、かなばかり、各部詳細、仕上げ表等の作図。	1前	60	2	○			○			○	
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
選択必修授業は学年で2つ以上履修する事	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(産業デザイン専門課程インテリアデザイン学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			はじめよう建築法規	二級建築士受験にも使用する建築基準法令集の対策準備。	1後	30	2	○			○		○		
○			キャリアデザイン I	自己のアイデンティティを再確認し、将来の専門分野での適性を考える。	1通	60	4	○			○		○		
○															
○															
○															
○															
○															
○															
○															
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
選択必修授業は学年で2つ以上履修する事	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(産業デザイン専門課程インテリアデザイン学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			家具デザイン	生活様式と家具の歴史、各種家具の構造把握からデザイン設計図。住空間における家具の存在と配置の仕方を学ぶ。	2前	60	2	○			○			○	
○			インテリア関連法規Ⅱ	建築物を設計する上で必要とされる様々な制限・地域・その他の法の理解。	2前	30	2	○			○			○	
○			福祉住環境コーディネーター対策講座	住宅設計上必要な、介護・医療・福祉の知識・バリアフリー住宅の計画、提案・リフォーム。	2前	30	2	○			○			○	
○			インテリアデザイン製図Ⅱ	R C造/S造の配置、平面、断面、展開、かなばかり、各部詳細、仕上げ表等の作図。	2前	30	1	○			○			○	
○			インテリアCADⅡ	ベクターワークスによるインテリアデザインの3D表現。外観・内観パースを作成する事を学ぶ。	2前	60	2	○			○			○	○
○			ショップデザイン実習	歴史的建築物の研究。建築空間の表現要素、目的と効果、つくる要素を学び、商業施設の計画方法を学ぶ。	2前	60	4	○			○			○	○
○			インテリア造形Ⅱ	設計図に基づく建築模型の製作技法と、プレゼンテーションの表現方法。インテリアの制作技術も学び空間にリアル感を与える。	2前	60	2	○			○			○	
○			インテリアコーディネーターⅡ(技術)	インテリアコーディネーター資格試験の計画と技術の範囲となり、歴史・計画・環境工学・構造と施工の表現方法を学ぶ。	2前	30	2	○			○			○	
○			プレゼンテーションⅡ	Adobeのイラストレーター・フォトショップ [®] 使い、実際にショップデザインを表現する。3Dパースに付加価値をもたらす技術を身に付ける。	2前	60	2	○			○			○	○
合計															
				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(産業デザイン専門課程インテリアデザイン学科) 平成30年度																	
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任			
○			インテリアデザイン施工	建築施工に準じながら構造、部材、工事別の内容に添った積算法。建築工事請負契約書、仕様書、工程管理、各種工事の概要、現場の管理と指導。	2前	30	2	○			○			○			
○			構造デザイン	基本的な構造や計算の仕方などを解法。断面による係数、たわみ、座屈、曲げせん断力、ラーメンの応力の理解。	2前	30	2	○			○				○		
○			ガーデンデザイン	近年のライフスタイルに合わせたガーデンデザインを実習を通して学び、建築との関連性を身に付ける。	2後	60	2		○	△	○	○			○		
○			住環境デザインⅡ	室内気候と環境、換気、伝熱、日照、照明等の設計上必要な環境条件の把握	2後	30	2	○			○					○	
○			スペースデザイン論Ⅱ	二級建築士資格取得に向けた、建築計画のまとめ。	2後	30	2	○			○					○	
○			プレゼンテーションⅡ	Adobeのイラストレーター・フォトショップ [®] 使い、実際にショップデザインを表現する。3Dパースに付加価値をもたらす技術を身に付ける。	2後	60	2		○			○	○			○	○
○			インテリアCADⅡ	ベクターワークスにより、実際にショップデザインを行う際の3Dパースを作成する。	2後	60	2		○			○	○			○	○
○			インテリアデザイン施工	二級建築士資格取得に向けた、建築施工のまとめ。	2後	30	2	○			○					○	
○			ショップデザイン実習	商業施設を中心とした修了制作課題(ショップデザイン提案)コンセプト設定～各種図面、インテリア表現、プレゼンテーション技法。	2後	60	2		○	△	○	○				○	○
合計				科目	単位時間(単位)												

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(産業デザイン専門課程インテリアデザイン学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			インテリアデザイン論	現代建築を中心に講義・スライド・視察から建築意匠の楽しさと建築を創作するための思考を学ぶ。	2後	30	2	○			○			○	
○			構造デザイン	二級建築士資格取得に向けた、建築構造のまとめ。	2後	30	2	○			○				○
○			インテリア関連法規Ⅱ	二級建築士資格取得に向けた、建築法規のまとめ。	2後	30	2	○			○				○
○			インテリアデザイン製図Ⅱ	二級建築士合格に向けた実践的な製図実習。	2後	30	1		○		○				○
○			インテリアコーディネーターⅡ(技術)	インテリアコーディネーター資格試験の計画と技術の範囲となり、色彩と造形・建築関連法規・住宅設備・材料・住宅と社会を学ぶ。	2後	30	2	○			○				○
○			キャリアデザインⅡ	社会の中でのアイデンティティを再発見し、将来の専門分野の進路への手がかりを得る。	2通	60	4	○			○		○		
合計						44科目	1950単位時間(91単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
選択必修授業は学年で2つ以上履修する事	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。